

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070501954		
法人名	有限会社 マエダ		
事業所名	グループホーム はなまる		
所在地 (電話番号)	〒 800-0222 福岡県北九州市小倉南区中曽根一丁目4-10 (電 話) 093--475-9800		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴5-27		
訪問調査日	平成21年3月25日	評価確定日	平成21年4月6日

【情報提供票より】(21年 3月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	25 人	常勤(専任 19人 兼務 2人) 非常勤 4人, 常勤換算 13 人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 (単独)		築 5年
建物構造	軽量鉄骨		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円
敷 金	有 (円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,333 円		

(4) 利用者の概要(21年3月12日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	0 名	要介護2	8 名
要介護3	8 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.6 歳	最低 74 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小野クリニック ・ 慈恵曽根病院 ・ 三好歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

J R曾根駅前の大型のショッピングセンター近くに、利便性、交通アクセスの良いバス通りに面したグループホーム「はなまる」がある。「ほっとでアットホームなケア」が展開され、職員の離職率も低く、ホーム長、職員間のチームワークも良く、利用者、家族からの信頼も厚い。「笑顔」「自信」「地域で仲良く」をホームの理念に掲げ、高齢者介護の拠点としての地域密着型サービスの役割を理解し、日々の介護サービスの向上を目指して努力されている。 かかりつけ医による毎月2回の定期的な往診や看護師2名が常勤し、AEDを設置して利用者の健康管理は万全である。また、中学生の体験学習や民生委員、ボランティアの協力を得て、少しずつ地域との交流が始まっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題は5件。うち3件はホーム長と職員の努力により改善が行なわれ、残りについても改善に向けて取り組み中である。今後は、「運営推進会議の役割」「地域の協力を得ての避難訓練」等に取り組まることが望まれる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価はホーム長が作成している。今後は外部評価、自己評価の意義と活用を、職員全員が理解し、一人ひとりが自己評価作成に取り組み、ホーム長が取りまとめ、評価結果についても職員に回覧し、改善に向けて努力することを期待したい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、関係者の参加のもと定期的の実施され、ホームの近況報告や行事、外部評価の結果報告など多岐にわたっている。会議の果たしてきた役割は、地域との共生・連携を行ってきた経緯がある。家族、ボランティアなど幅広い方々の協力を得て課題解決に当たられることを期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱を玄関に設置しているがほとんど利用がない。家族の来訪時や運営推進会議、家族からの電話などで、意見・苦情・不安などを聴き、運営の反映に取り組んでいる。また、家族の不安や心配事を緩和する方法の一つとして、ホーム便り「はなまるだより」を毎月発行し、家族間で回し読みするほど楽しみなホーム便りである。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に入会し、地域の清掃活動、神社の注連縄づくりや盆踊りなど積極的に参加し、また、中学生の体験学習の受入れなど地域との交流を図っている。今後は、AED(自動体外式除細動器)の活用や公民館、町内会への高齢者介護をテーマとした介護講師派遣などといったホーム発信型の地域交流が望まれる。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の外部評価を受け、「自信」「笑顔」に「地域で仲良く」に加え、地域密着型グループホームとして独自の理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関とリビングに理念を掲示し、ミーティング時に確認し合っている。職員は理解して実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入り、地域でのしめ縄づくり、盆踊り、夏祭りの行事への参加や清掃活動など、地域との交流には積極的に参加している。また、中学生の体験学習は、利用者にも喜ばれ、高齢者との「ふれあいを通じ、介護の理解と大切さを知ってもらうように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果については、職員全員に回覧し、各担当を決め改善に向けて努力し、ホームの運営に活かす取組みがなされている。入浴の件など、具体的な成果があがっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、関係者の出席のもと定期的の実施されている。内容としては、ホームの近況報告、行事に関する意見交換や、外部評価の報告などとなっている。	○	地域との連携を深めるツールとして、運営推進会議がマンネリ化しないように議題や内容を考え、意見交換会の会議で終わることなく、安全防災での協力、ボランティアの受け入れなど運営推進会議を活用されることを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政や地域包括支援センターを、訪問して得られた情報などを活用し、ホームでの介護サービスの質の向上に反映している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護の取り組みについては、外部の研修に参加し、成年後見制度等への理解を深めている。また、パンフレットなどを準備し、家族にいつでも説明できる体制がある。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行している「はなまるだより」は写真やイラストなどで利用者の暮らしの様子が一目で分かり、請求書と共に「はなまるだより」を同封して家族に送り、家族から好評を得ている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが利用は少ない。運営推進会議や家族の来訪時に意見を聴いて、出された意見は、ミーティング、カンファレンスや介護計画などに反映している。		家族だけで話し合える家族会を設立することが望まれる。
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少なく、利用者へのダメージもなく済んでいる。また、異動時には、ユニット間で交代勤務し馴染みの関係づくりを行えるよう工夫している。		
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障	職員の採用は、性別、年齢の制限はない。ホーム長や管理者は、職員が生き生きと能力を発揮できる協力体制をつくり、働きやすい職場環境を目指している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりくんでいる	人権教育に関する研修に職員は積極的に参加している。ミーティングなどを利用し、伝達研修を行い情報の共有を図っている。		
5. 人材の育成と支援					
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員一人ひとりの介護に関する経験年数や習熟度に合わせて、研修会への参加は積極的に奨励され、内外で主催される研修会に参加している。職員全員が知識を共有できるように工夫している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や地域でのグループホーム協議会に入会するなど同業者との交流は積極的に行っている。また、同業者間での職員交流を通じ、サービスの質の向上に向けての取組みを行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者、家族がホームの見学や体験入居などの機会を捉え、職員やホームの雰囲気に馴染み、納得して入居してもらえるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員間では、利用者は、人生の大先輩という共通認識にあり、利用者から教えられたりすることも多く、利用者と共に生活を支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや意向の把握をもとに、出来る限りの支援を行っている。意向の表出が困難な場合は、過去の履歴や家族、親せき、友人などから聴きとり、今、利用者が何をしたいのか、どこに行きたいのか、何を食べたいのか等時間をかけて利用者の視点に立って話し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の要望を取り入れ、医師、ケアマネジャー、職員で話し合い、ケアカンファレンスやミーティングなどを経て、介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月毎に行っている。利用者の状態の変化は、生活日誌や業務日誌で共有化している。利用者の状態に変化が見られたときはその都度、家族の了承を得て、計画の見直しを行なっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員は理・美容院や病院への送迎、散歩や買い物、外出など利用者の要望に応じ、ホームの多機能性を活かした支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医の往診は、月に2回行われ、利用者や家族の要望に応じ、かかりつけ医の受診支援も行なっている。緊急時の対応は提携医に連絡し、指導を受け、適切に対応している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の入居時に、重度化、終末期の支援については、重要事項説明書にも記し、利用者、家族に説明し、承諾してもらっている。また、利用者の状態変化を受け、家族、医師、ホーム関係者が話合う体制が出来ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	内外での研修会や勉強会で職員の意識の向上を図り、プライバシーの問題点について、職員間の周知徹底が図れている。個人情報や記録の取扱いは、鍵のかかるロッカーで保管されている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日の大まかな流れはあるが、利用者一人ひとりのペースを尊重したケアを心がけている。その日その日の心身の、状況に対応した過ごし方に配慮し、支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前の準備や下ごしらえなど、利用者の協力が得られるものは職員と一緒にやっている。食事は、職員と同じテーブルで一緒に和やかな雰囲気の中で行えるよう配慮されている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の状態に合わせて入浴できるようになっている。2ユニットの特徴を活かして、1階と2階どちらでも入浴ができるようになっているため、毎日の入浴が可能である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の状態や希望をもとに、趣味や日常生活の中で、散歩、買い物、めだかの餌やり、もやしの根とり、わけぎの仕分け等、役割分担をし、生きがいや張り合いを持てるよう支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの希望を聴き、散歩、外出、ドライブ、外泊など家族の協力を得ながらながら、戸外に出られるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム長、管理者、職員は利用者が日中鍵をかけられ、外に出られない心理的な不安や閉塞感を理解した上で、帰宅願望の強い利用者や、不審者の侵入、また、ホームの前の道路は、交通量も多く危険などの理由で、家族とも相談の上安全上からも、玄関出入口はやむなく施錠している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練は、消防署の協力をえながら年4回実施されている。また、防災研修として、AED(自動体外式除細動器)を用いた訓練も実施している。	○	地域住民の参加、協力が得られるように働きかけを行い、夜間を想定した避難訓練を行ったり、非常時に備えて飲料水や非常食などの備蓄が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事摂取量や水分量などは、日々の記録である「生活日誌」や「業務日誌」に記載され、栄養摂取や水分確保の支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と職員との共同制作の大きな貼り絵や、行事などの写真。くつろぎの空間としてピアノが置かれている場所。日当たりも良く穏やかで、ゆったりとした雰囲気を感じとれる。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者が使い慣れた家具や、馴染みのものを、家族の協力で、持ち込み、居心地よく過ごせるよう配慮されている。		